

事業シート（概要説明書）

個別事業名	歴史的建造物整備事業（旧黒須銀行）		事業開始年度	2018年度																																																																																																								
上位施策事業名	文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援		担当局・部名	教育部																																																																																																								
根拠法令等	文化財保護法、入間市文化財保護条例		担当課・担当名	博物館																																																																																																								
事務区分	■自治事務 □法定受託事務		作成責任者	澤田和也																																																																																																								
実施の背景	<p>黒須銀行は、渋沢栄一が顧問となり明治33（1900）年に創業した地方銀行で、現在の埼玉りそな銀行の源流の一つである。現在残っている建物は明治42（1909）年に建設された土蔵造りの本店営業所で、平成2（1990）年には市指定有形文化財（建造物）になるなど、貴重な文化遺産としての保存が求められている。</p> <p>しかし、築110年を経過し、壁面の損傷や雨漏りの発生等、建物の維持に重大な問題が発生している。また、トイレや水道等の設備も未整備で、現状において活用を図るのは困難な状況にある。このため建物の保存と活用に向けて、平成30（2018）年度に庁内検討委員会を組織し方向性を確認するとともに、令和元（2019）年度には市民・有識者を含む保存活用計画を検討する市民会議を設置し、令和2（2020）年10月に「旧黒須銀行保存活用基本計画」を策定した。これにより令和2（2020）年度に建物の復元改修に向けた基本設計を完了し、令和3（2021）年度には実施設計を行っている。</p>																																																																																																											
目的 (何のために)	<p>旧黒須銀行を貴重な文化財建造物として保存していくとともに、建物の一般公開をはじめ様々な活用を行うことで、来館者へ文化的歴史的魅力を伝えていく。活用に当たっては、旧石川組製糸西洋館をはじめ黒須地域の様々な歴史的建造物と一体的に行うことで、旧黒須銀行を地域の歴史をものごとたり、まちのアイデンティティを伝える施設として位置付けていく。</p>																																																																																																											
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	全市民及び市外住民			対象者数（全住民に対する割合） 146,808 人（100%）																																																																																																							
	実施方法	<p>■直接実施</p> <p>□業務委託 又は □指定管理（委託先又は指定管理者：）</p> <p>□補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体：）</p> <p>□貸付（貸付先：） □その他（）</p>																																																																																																										
	事業内容 (手段、手法など)	<p>事業内容</p> <p>今後の旧黒須銀行の保存及び活用に必要な工事を実施する。工事に当たっては、指定文化財としての価値を高めるための復元と、活用に必要な設備を整備するための改修を併せて行っていく。工事後の活用に関しては、市民からの意見等をもとに、地域の他の文化財等と連携した事業を行っていく。復元改修工事には多額の資金（総事業費約200,000千円）が必要となることから、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングの実施、市文化財保存活用基金の活用により、市財政以外の収入を確保していく。黒須銀行の創業に大きく関わっている渋沢栄一が、令和3（2021）年に大河ドラマの主演、令和6（2024）年には新1万円札の顔となる機運を捉え、効果的なPRを行うことで、事業の効果を高めていく。</p>																																																																																																										
	関連事業 (同一目的事業等)	<p>旧石川組製糸西洋館保存活用事業 (担当：博物館、事業費：6,114千円（2021年度予算）、事業内容：施設の維持運営、一般公開やイベントの開催、撮影への貸出等)</p>																																																																																																										
	コスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">2021 年度 (予算)</th> <th colspan="3">2020 年度 (決算)</th> <th colspan="3">2019 年度 (決算)</th> <th colspan="3">2018 年度 (決算)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">事業費</td> <td>事業費合計</td> <td>10,315</td> <td>千円</td> <td></td> <td>3,228</td> <td>千円</td> <td></td> <td>506</td> <td>千円</td> <td></td> <td>482</td> <td>千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費内訳 (2020年度分)</td> <td colspan="12">                     旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議謝礼 56,000円                      旧黒須銀行復元改修工事基本設計業務委託 2,904,000円                      旧黒須銀行消防設備保守点検 37,400円                      旧黒須銀行機械警備業務委託 66,000円                 </td> </tr> <tr> <td>担当正職員</td> <td>0.05</td> <td>人</td> <td>395</td> <td>千円</td> <td>0.05</td> <td>人</td> <td>395</td> <td>千円</td> <td>0.05</td> <td>人</td> <td>395</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>臨時職員等</td> <td>0.04</td> <td>人</td> <td>56</td> <td>千円</td> <td>0.06</td> <td>人</td> <td>84</td> <td>千円</td> <td>0.06</td> <td>人</td> <td>84</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人件費</td> <td>人件費合計</td> <td></td> <td>人</td> <td>451</td> <td>千円</td> <td></td> <td>人</td> <td>479</td> <td>千円</td> <td></td> <td>人</td> <td>479</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>10,766</td> <td>千円</td> <td></td> <td>3,707</td> <td>千円</td> <td></td> <td>901</td> <td>千円</td> <td></td> <td>877</td> <td>千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																2021 年度 (予算)			2020 年度 (決算)			2019 年度 (決算)			2018 年度 (決算)			事業費	事業費合計	10,315	千円		3,228	千円		506	千円		482	千円		事業費内訳 (2020年度分)	旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議謝礼 56,000円 旧黒須銀行復元改修工事基本設計業務委託 2,904,000円 旧黒須銀行消防設備保守点検 37,400円 旧黒須銀行機械警備業務委託 66,000円												担当正職員	0.05	人	395	千円	0.05	人	395	千円	0.05	人	395	千円	臨時職員等	0.04	人	56	千円	0.06	人	84	千円	0.06	人	84	千円	人件費	人件費合計		人	451	千円		人	479	千円		人	479	千円	総事業費	10,766	千円		3,707	千円		901	千円		877	千円
		2021 年度 (予算)			2020 年度 (決算)			2019 年度 (決算)			2018 年度 (決算)																																																																																																	
事業費	事業費合計	10,315	千円		3,228	千円		506	千円		482	千円																																																																																																
	事業費内訳 (2020年度分)	旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議謝礼 56,000円 旧黒須銀行復元改修工事基本設計業務委託 2,904,000円 旧黒須銀行消防設備保守点検 37,400円 旧黒須銀行機械警備業務委託 66,000円																																																																																																										
	担当正職員	0.05	人	395	千円	0.05	人	395	千円	0.05	人	395	千円																																																																																															
	臨時職員等	0.04	人	56	千円	0.06	人	84	千円	0.06	人	84	千円																																																																																															
人件費	人件費合計		人	451	千円		人	479	千円		人	479	千円																																																																																															
	総事業費	10,766	千円		3,707	千円		901	千円		877	千円																																																																																																
財源 内訳	国県支出金																																																																																																											
	国県支出金の内容																																																																																																											
	地方債	8,900	千円			千円			千円			千円																																																																																																
	その他特財	12	千円			千円			千円			千円																																																																																																
	その他特財の内容	行政資料等（旧黒須銀行グッズ）頒布料収入																																																																																																										
一般財源	1,854	千円		3,707	千円		901	千円		877	千円																																																																																																	
財源合計	10,766	千円		3,707	千円		901	千円		877	千円																																																																																																	

## 事業シート（概要説明書）

個別事業名		歴史的建造物整備事業（旧黒須銀行）		事業開始年度		2018年度	
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	2020 年度	2019 年度	2018 年度	
		来館者数	日	534/600	796/600	636/600	
				/	/	/	
	単位当たりコスト	/					
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	歴史的建造物（文化財）の保存活用に当っては、対象となる文化財の知名度を高め、その価値を共有する人数を増やしていくことが重要となる。このため建物の公開における来館者数を活動実績とし、その結果により文化財の保護意識が向上した成果を図る上で、市民意識調査における生活環境の満足度の「文化財などの保護」に対する点数を成果目標とした。					
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	第12回 （2019）	第11回 （2014）	第10回 （2011）	
		市民意識調査（文化財などの保護）	点	0.178	0.176	0.189	
				/	/	/	
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	<p>令和2（2020）年度には、市民や知識経験者の意見を踏まえて、「旧黒須銀行保存活用基本計画」を策定するとともに、この計画をもとに復元改修工事のための基本設計を完成させることができた。令和3（2021）年度には、引き続き基本設計をもとに実施設計の完成に向けて事業を進めている。ただし、令和4（2022）年度からの復元改修工事には多額の資金が必要となることから、市財政に頼るだけでなく、収入の確保の手法として、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングなどの実施を検討している。なお、令和3（2021）年4月からは市文化財保存活用基金を設置して、寄附金の受入先等の整備も行っている。</p> <p>一方、復元改修工事完了後は、文化財建造物として地域の歴史を発信するとともに、地域の人々に愛され、誇りを持ってもらえる施設としての活用が求められている。旧石川組製糸西洋館をはじめ地域の歴史的建造物と連携した事業を行っていくことで、施設の持つ魅力を向上させ、シティセールスへ貢献していくことが必要である。</p> <p>なお、事業を進めていく上でPRは重要である。渋沢栄一ゆかりの銀行としてPRすることで、令和3（2021）年には地元メディア、NHKのニュース番組でも取り上げられ、入館者数以外への波及効果も見られた。令和6（2024）年の新1万円札発行に向けて、さらなるPRを進めていくことも重要である。</p>						
	比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）	桶川市では、平成29（2017）年度に市指定文化財「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」の保存活用計画を策定し、平成30（2018）年度～令和元（2019）年度に復元整備工事（総工費484,145千円）を実施。現在は「桶川飛行学校平和祈念館」として活用している。					
特記事項	<p>【参考】市民意識調査における生活環境の満足度「文化財などの保護」の推移</p> <p>第10回（2011） 満足度 0.189（平均値 0.166）、順位 14位／40施策</p> <p>第11回（2014） 満足度 0.176（平均値 0.202）、順位 15位／41施策</p> <p>第12回（2019） 満足度 0.178（平均値 0.218）、順位 17位／44施策</p>						

施設シート										2021年度		
番号	7		名称	旧黒須銀行等歴史的建造物整備事業						<input checked="" type="checkbox"/> 単独館 <input type="checkbox"/> 複合館		
所在地		入間市宮前町5-33										
根拠条例等												
土地情報	所有面積	813.47 m <sup>2</sup>		地目	宅地		所管課	博物館				
	借地面積	m <sup>2</sup>		借地元			作成責任者	澤田 和也				
	総面積	813.47 m <sup>2</sup>		借地料	千円/年		財産区分	<input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 普通				
建物情報	延べ床面積	236.02 m <sup>2</sup>		所有区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自己所有 <input type="checkbox"/> 借用		構造	木造・土蔵造り				
	建設・取得	1909年5月		建設・取得	設計者		IS値					
	補助金有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					階数	2階				
	借用元						借用金額	千円/年				
	建設・取得額	千円			取得経緯							
	地方債残高	<input type="checkbox"/> 有 (残高 円) 償還 ( 年/ 年) <input type="checkbox"/> 無										
	改修等	<input type="checkbox"/> 耐震 <input type="checkbox"/> 大規模改修 <input type="checkbox"/> バリアフリー化 <input type="checkbox"/> 省エネ対応										
		改修時期・内容・金額										
	設置目的	渋沢栄一が設立に当たり顧問を務めた「黒須銀行」の本店営業所として、明治42年(1909)に建設。黒須銀行が武州銀行(現在の埼玉りそな銀行)に合併後も支店として業務が行われていた。1977年に入間市へ寄贈され、現在は市指定有形文化財「旧黒須銀行」として保存活用が行われている。										
	実施事業	施設の公開、施設を生かした事業の実施など										
主な利用者(複数選択可)	<input type="checkbox"/> 官公庁利用 <input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 登録団体 (団体数: ) <input type="checkbox"/> 市内一般企業、団体 <input type="checkbox"/> 市外一般企業、団体 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input checked="" type="checkbox"/> 市外住民 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
利用の制限												
開館日数	日/年		休館日									
開館時間												
管理体制	<input checked="" type="checkbox"/> 直接管理 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 住民等の自主管理 (委託先又は指定管理者: )											
	(委託内容・金額・事業者選定方法: )											
施設の概要	名称	主屋			名称	付属棟			名称	付属棟増築部		
	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	3	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	4	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	3
	名称				名称				名称			
	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	
	名称				名称				名称			
	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	
	名称				名称				名称			
	床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数		床面積	m <sup>2</sup>	部屋数	
ハード(施設維持管理) ソフト(実施事業) にかかる人員	正規職員	嘱託職員等		委託業者	指定管理者	住民等の自主管理	その他	合計				
	ハード	0.01 人	0.00 人	人	人	人	人	0.01 人				
	ソフト	0.04 人	0.04 人	人	人	人	人	0.08 人				
	合計	0.05 人	0.04 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.09 人				

		2021年度（予算）	2020年度（決算）	2019年度（決算）	2018年度（決算）				
維持管理費		総支出	409 千円	269 千円	398 千円	541 千円			
財源内訳	収入	収入合計	12 千円	0 千円	0 千円	0 千円			
		使用料・手数料	千円	千円	千円	千円			
		国県補助金	千円	千円	千円	千円			
		その他（ ）	12 千円	千円	千円	千円			
	一般財源	318 千円	269 千円	398 千円	541 千円				
支出内訳（2020年度分）									
人件費： 79千円 委託料： 104千円 光熱水費： 17千円 修繕料： 0千円 （修繕内容： ）		指定管理料のうち管理委託分：			千円				
		減価償却費：			千円				
		地方債の元利償還：			千円				
		その他（通信運搬費、保険料）			69千円				
利用状況	各部屋別稼働率	名称			平日	%	土日祝	%	
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
		名称			平日	%	土日祝	%	
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
		名称			平日	%	土日祝	%	
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
		名称			平日	%	土日祝	%	
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
自己評価・特記事項等	施設の復元改修工事前であり、施設の活用状況に関するデータはありません。								



# 黒須銀行とは

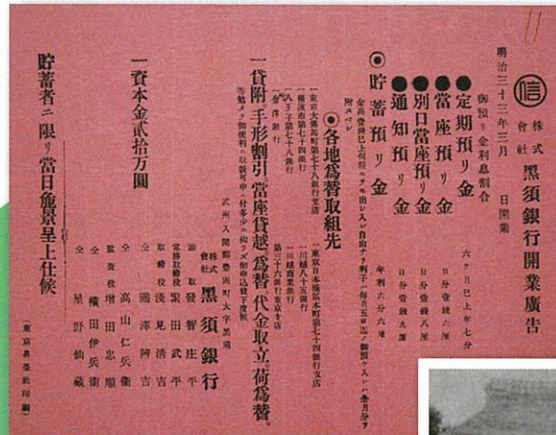
株式会社黒須銀行は、道徳をもって勤儉貯蓄し恒産の基を作ろうと、繁田満義が中心となって設立した金融共済組織「黒須相助組合」を母体にして、明治33年（1900）2月、豊岡町大字黒須（現在の入間市宮前町）に設立されました。資本金20万円、役員は頭取發智庄平、常務取締役繁田武平翠軒など6人、顧問として日本経済界の重鎮沢栄一、創業者繁田満義らが就任しました。その営業は「堅実主義と華客本位」を本旨とし、地域の基幹産業である製糸や機業などに融着して業績を伸ばし、入間郡内に所沢出張所、川越・入間川・松山の3支店を置きました。

黒須銀行は、一時は県下第3位の銀行に成長しましたが、大正9年（1920）3月の恐慌に際して莫大な損失を生じたことが引き金となり、大正11年5月、武州銀行に合併となりました。現在の埼玉りそな銀行の源流の一つです。

現存する土蔵造りの建物は、明治42年に黒須銀行本店営業所として建てられ、昭和35年（1960）まで埼玉銀行豊岡支店として使われていました。昭和40年に武蔵町（当時・現入間市）「郷土民芸館」となり、その後土地建物は市に寄贈されました。郷土民芸館は平成6年（1994）に入間市博物館の開館に伴って閉館し、市指定文化財である建物は博物館へ移築する予定でしたが、現在は現地で修理し、西洋館など豊岡地区に多い歴史的な建物と一体での活用をはかっていく方針です。



繁田満義



「黒須銀行開業廣告」明治33年（1900）



創業時の本店営業所



川越支店 松山支店

信用は資本なり

『広報いるま』掲載の連載コラム「黒須銀行物語」はこちらから

# 黒須銀行と建物の沿革

- 明治27年（1894） 繁田武平満義の唱導で日本弘道会黒須支会結成。黒須信用組合（のち黒須相助組合）結成。
- 明治33年（1900） 2月 資本金20万円で株式会社黒須銀行を普通銀行として設立。3月 茅葺屋根の借家で営業開始。所沢で出張営業開始。
- 明治34年（1901） 所沢出張所開設。
- 明治39年（1906） 土地・倉庫1棟買取り。
- 明治40年（1907） 11月 新営業所起工。
- 明治42年（1909） 4月 新築落成（土蔵造2階建）。建築費約7200円。倉庫1棟購入。5月 本店営業所で営業開始。
- 明治43年（1910） 12月 倉庫1棟落成。
- 明治44年（1911） 8月 川越支店営業開始。
- 大正6年（1917） 8月 資本金70万に増額を決議。10月 隣接地所に倉庫1棟落成。
- 大正7年（1918） 11月 松山支店・入間川支店営業開始。
- 大正8年（1919） 12月 資本金300万に増額を決議。
- 大正9年（1920） 3月 株価大暴落。取り付け騒ぎとなる。
- 大正11年（1922） 6月 武州銀行に合併。同行豊岡支店となる。
- 昭和18年（1943） 7月 埼玉銀行豊岡支店となる。（昭和35年10月まで）
- 昭和40年（1965） 3月 豊岡町（現入間市）が埼玉銀行から建物を借用し郷土民芸館として一般公開。
- 昭和52年（1977） 7月 埼玉銀行から入間市に寄贈される。
- 平成2年（1990） 4月 入間市指定文化財となる。
- 平成6年（1994） 入間市博物館開館に伴い郷土民芸館閉館（建物非公開となる）。
- 平成18年（2006） 建物の特別公開日を設ける。
- 平成19年（2007） 3月 1棟のみ残存していた倉庫解体。
- 令和元年（2019） 10月 保存活用市民会議発足。
- 令和2年（2020） 10月 保存活用基本計画策定。



1953



1965



2019

# 旧黒須銀行周辺案内図



お問い合わせ

入間市博物館 **ALM**  
 埼玉県入間市二本木100 ☎ 04-2934-7711  
 ※旧黒須銀行とは所在地が異なりますのでご注意ください。



入間市指定文化財

# 旧黒須銀行

「黒須銀行史」跋（大正九年）より  
 七十六翁 繁田満義

人生の事業多々ありといえども、  
 一つとして信義道徳の力を藉らずして  
 成功の美果を収め得たるものはあらず。  
 これ信義道徳は、  
 ただに人間社会特有の美德たるのみならず、  
 かねて事業発展の原動力なればなり。



埼玉県入間市



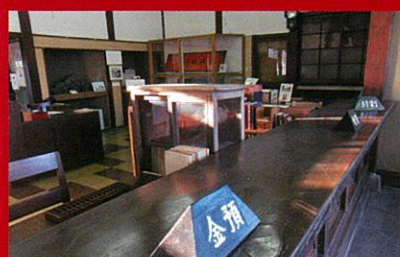


大正時代に撮影された黒須銀行外観。大きなガラス窓、鉄格子が特徴的。現在は白いペンキが塗られ、鉄格子も取り外されている。

## 土蔵造りの銀行建築

明治大正期の銀行建築といえば、豪壮な石造りや瀟洒な煉瓦造りの西洋建築のイメージがあります。しかし、明治期の地方銀行の多くは伝統的な土蔵造りでした。銀行は金銭を扱うことから、建物には防犯・耐火の信頼が求められます。石造りや煉瓦造りも耐火建築ですが、地震に弱いため、明治期に火災に見舞われた大都市を中心に、江戸時代から経験的に火災に強いことが実証されていた土蔵造りが採用されたのです。川越の蔵造りの町並みも、日本橋の間屋街にあった黒漆喰で仕上げる店蔵の影響を受けています。黒壁は、白漆喰の上に黒漆喰を塗り、手で磨き上げるという贅沢な仕上げです。

明治42年に竣工した黒須銀行も、今は白いペンキが塗られていますが、下には黒漆喰が残っています。通風と採光のため多くしたガラス窓や、御影石・タイルの腰壁など、伝統と近代的デザインが違和感なく融合しています。屋根瓦は良質なことで知られていた地元の小谷田瓦です。



小谷田瓦の鬼瓦や軒瓦。行章があるガラス窓が多層され、タイル張りの腰壁と相まって明るく清潔感のあるモダンな印象。ケヤキ一枚板のカウンター。行員はハンク台と呼んでいた。

## 入間市指定文化財 旧黒須銀行



黒須銀行の行章。○の中に「信義」の「信」の文字をあしらう。



会議室での重役会議



営業室での執務風景



担保（繭等）保管のために併設されていた倉庫

## 「道德銀行」と渋沢栄一

埼玉県の3偉人の一人、渋沢栄一。生涯にわたり500社もの企業の設立・運営に関わりましたが、黒須銀行もその一つです。

青年時代、渋沢は家業である藍玉の商いの折に、繁田家に立ち寄って休憩することがあり、黒須銀行創業者となる繁田満義との親交を深めることとなったのです。明治32年(1899)、飯能戦争で亡くなった養子平九郎の墓参の途上、繁田家に立ち寄りしました。この時、満義から銀行設立の計画について相談を受け、自らもその顧問となることを約束し、その背中を押すことになったのです。渋沢は約束通りに、2年間にわたり黒須銀行の顧問を務めました。

黒須銀行は、零細な庶民の道德の結晶である貯蓄を資本としていること、学校には利子を優遇したり、利益の中から学校基本金や地元の公共事業に寄付をするなどの道徳的な資金運用を行っていることから、「道德銀行」と呼ばれました。「経済道德合一説」を唱えた渋沢は、このことを喜び、大正2年(1913)「道德銀行」と揮毫して贈っています。



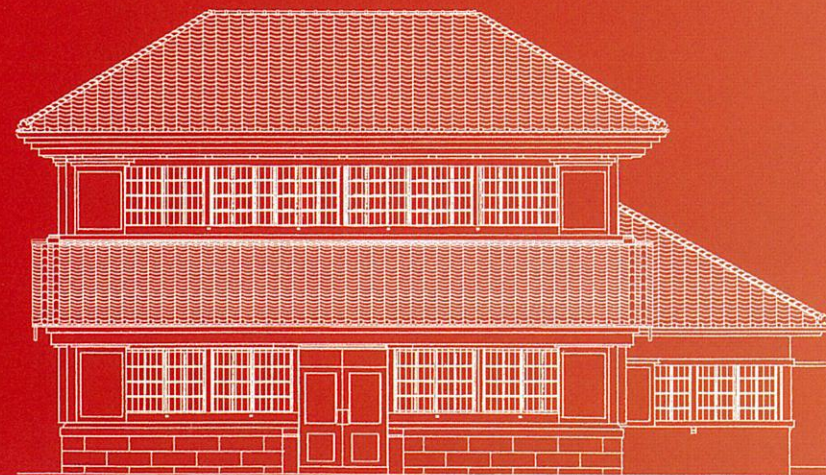
渋沢栄一



渋沢栄一が黒須銀行に贈った扁額（埼玉りそな銀行所蔵）

## 建物の概要

所在地	入間市宮前町5番33号
建築年月日	明治42年(1909)5月2日(竣工式)
建築・構造	(主屋)木造土蔵造、2階建、 棧瓦葺、寄棟造、外装漆喰仕上
延床面積	(主屋)1階 174.87㎡ 2階 61.15㎡
管理者	入間市教育委員会 博物館





## 外構計画

外構は北側を出入り口とし、駐車場や駐輪場、土蔵跡(平面規模)を生かしたイベントスペースを整備する。舗装はバリアフリーに十分配慮しつつ、東正面側は土状タタキ仕上げ、駐車場や駐輪場及び通路は、浸透アスファルト舗装とし、旧土蔵跡はイベント広場とするほか、駐車可能な場とする。道路側にフェンス、西南隣地側は目隠しフェンスを設ける。また、敷地の雨水抑制は、建物周囲を主体に浸透トレンチ方式とする。



外構計画図

## 旧黒須銀行復元修理工事 計画説明概要書



黒須銀行本店 大正時代

令和3年3月

入間市教育委員会





修復 東立面図



修復 1階平面図

## 外部の復元修理

外装の復元修理は、土蔵（土）壁をそのまま残し、当初の漆喰塗り（黒）に修復することとする。また、下屋軒の化粧垂木は漆喰仕上げの復元を行う。屋根瓦は創建当時の瓦に葺き替える。同時に棟瓦、鬼瓦等も資料をもとに復元する。付属棟、下屋瓦は現在の瓦を葺き直しするが、いずれも耐震補強のため瓦を加工し、棧瓦葺きとする。

その他、窓面格子の復活、1階南の雨戸袋位置の移動（復元）等がある。

## 内部の復元修理

内部の復元修理は建物を3ブロック（主屋、付属棟、付属棟増築部）に分けて考察している。

主屋は原則として復元を前提とする。そのため、判明した床、天井仕上げほか、階段（位置が判明）や出納カウンターを復元する。

付属棟は主に展示空間とし、一部の修復を除き新仕上げとなる。また、内階段を復元（使用不可）、便所部分は修復を施し、見学ができるようにする（使用不可）。

付属棟増築部は、管理室と手洗所に改修する。構造部材の一部を除き新仕上げとなる。

## 建物基礎について

現在の建物周囲には盛土が行われ、地盤は建設当初より高くなっている。そのために正面の化粧石貼りが、中途半端に見えているばかりでなく、建物土台が土に接し、腐食の原因となっている。

補強計画にあたり、この建物の基礎が大谷石であることから、基礎はコンクリート基礎にする必要がある。そのため建物を揚げ屋（約60cm）し、新たな基礎の完了後、もと位置に戻す（納める）工法とする。

外部				
屋根：瓦葺き復元補修				
外壁：漆喰（黒）復元補修、一部新規とする				
建具：補修				
外構：敷地内整備と周囲塀等は外構計画図参照				
内部				
区分	室名	床	壁	天井
主屋	営業室	板貼り	漆喰塗	漆喰塗
		階段の復元		
	客溜り	人造石研ぎ出し	漆喰塗	漆喰塗
		カウンター、出納窓		
出納室	板貼り	漆喰塗	漆喰塗	
展示室	板貼り	漆喰塗	竿縁天井（修復）	
附属棟	旧応接室	板貼り	漆喰塗	竿縁天井（修復）
	展示スペース	シート張り	クロス貼り	クロス貼り
		内階段の復元		
	便所	全て修復する		
物置	シート貼り	クロス貼り	クロス貼り	
附属棟増築部	管理室	シート貼り	クロス貼り	クロス貼り
	便所（共通）	シート貼り	化粧ケイロ板貼り	クロス貼り
		多目的便所はオストメイト対応、ベビシート付		

仕上概要表







# 青天を歩け!

SHIBUSAWA EIICHI

## ~埼玉編~

大河ドラマ「青天を衝け」主人公・渋沢栄一の出身地埼玉には、ゆかりの場所がたくさんあります。その地を巡る番組「青天を歩け!」の放送にあわせて、マップを作りました。番組と一緒に栄一の足跡をお楽しみください。

### ④ 上武鉄道(現・秩父鉄道)



昭和30年頃の上武鉄道

現在の秩父鉄道

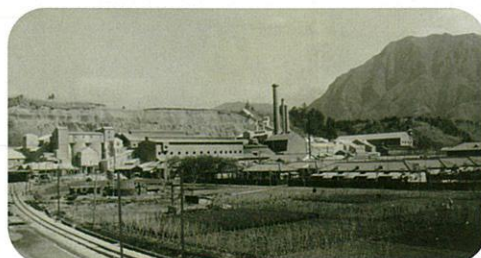
写真提供: 秩父鉄道株式会社

交通が不便だった秩父と熊谷の有力者たちは、明治32(1899)年に上武鉄道株式会社を設立し、34年に熊谷〜寄居間で営業を開始しました。ヨーロッパ歴訪時から鉄道に強い関心を寄せていた栄一は、路線延長など積極的に経営を手助けし、輸送力の強化を図りました。沿線の観光開発にも力を注ぎ、人気観光地・長瀬の基礎を築きました。長瀬駅前には「長瀬は天下の勝地」という栄一の書が刻まれた石碑が残っています。

DATA  
【住所】秩父鉄道「長瀬」駅  
【アクセス】秩父鉄道「長瀬」駅

### ⑤ 秩父セメント(現・太平洋セメント)

秩父にある武甲山の石灰石に注目した諸井恒平は、親戚である栄一にセメント事業を起こすことを相談します。栄一の援助を受けた諸井は、大正12(1923)年に秩父セメント会社を設立します。会社は順調に発展し、合併などを経て、今なおセメントを作り続けています。昭和31(1956)年に完成した第2工場は、生産性の高さと美しさを兼ね備えた名建築として知られています。ここで生産されたセメントは鉄道で運ばれ、東京の近代化に使われました。



写真左: 操業当初の工場の全景と武甲山  
写真右: 子会社・秩父太平洋セメントの現在の様子



※見学はできません

### ⑥ 黒須銀行(現・埼玉りそな銀行)

明治33(1900)年の設立時に顧問だった栄一は、道徳に基づく経営を目指すことを意味する「道徳銀行」という書をこの銀行に贈りました。「論語」と「算盤」の一致を唱え、道義に反した金もうけを戒めた栄一らしい言葉です。明治42(1909)年に完成した本店は土蔵造り2階建ての寄棟瓦葺で、入間市の指定有形文化財になっています。

DATA  
【住所】入間市宮前町5-33  
【開館時間】10:00~16:00  
(公開日限定)  
【アクセス】西武池袋線「入間市」駅から徒歩約10分



大正9年頃の様子



現在の様子



現在の埼玉りそな銀行本店(さいたま市)

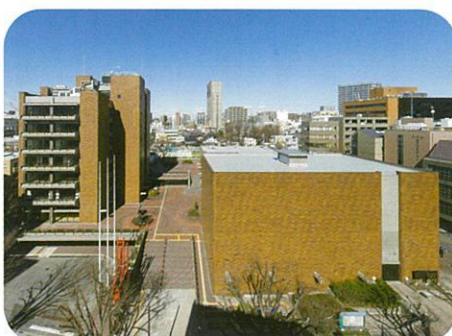
### ⑦ 埼玉会館

埼玉会館は、昭和天皇(当時は皇太子)のご成婚を記念して建設が計画されましたが、関東大震災によって延期されていました。そこで、栄一は埼玉県知事と共に寄付金集めに尽力し、大正15(1926)年に完成させました。当時国内では珍しい公共集会施設で、栄一は開館式で祝辞を述べています。

DATA  
【住所】さいたま市浦和区高砂3-1-4  
【開館時間】9:00~19:00(休館日を除く)  
【アクセス】JR「浦和」駅から徒歩約6分



開館式で挨拶をする渋沢栄一



現在の埼玉会館

埼玉県立歴史と民俗の博物館  
2021年3月20日(土・祝)~5月16日(日)  
NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け~渋沢栄一のまなざし~」を開催

### ① 深谷商業学校(現・埼玉県立深谷商業高等学校)

日本の商業学校が実践教育を軽視していると憂えていた栄一は、大正10(1921)年に創立した深谷商業学校を手厚く支援しました。翌年10月には学校を訪れて記念植樹を行い、「至誠」「土魂商才」の書を贈っています。フレンチ・ルネサンス様式を基調とする木造2階建ての校舎は、今は記念館(二層楼)として使われ、一般公開されています。

DATA  
【住所】深谷市原郷80番地  
【開館時間】10:00~12:00 13:00~15:00(日曜のみ)  
【アクセス】JR「深谷」駅から徒歩約15分



創立当時の二層楼



現在の二層楼

期間限定  
「渋沢栄一 論語の里  
循環バス」を運行中  
詳しくは深谷観光バス  
電話: 048-571-1881

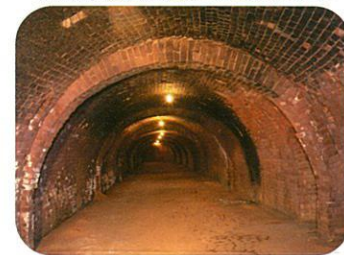
### ② 日本煉瓦製造株式会社

近代的な官庁街の整備を進めていた明治政府は、栄一に煉瓦の大量生産を要請しました。現在の深谷市上敷免は、利根川から採れる良質な粘土を使った瓦造りで有名だったため、明治21(1888)年、この地に日本初の洋式煉瓦工場が設立されました。ドイツ製の機械によって製造された煉瓦は、同28年からは鉄道で東京へと運ばれ、日本銀行・旧東宮御所(現・迎賓館赤坂離宮)・東京駅といった明治の名建築に使われました。工場の一部は今も保存され、史料館では道具類を見学することができます。

DATA  
【住所】深谷市上敷免28-10  
【開館時間】9:00~16:00(土・日曜のみ)  
【アクセス】JR「深谷」駅からタクシーで約15分



写真左: 明治22(1889)年の工場の様子  
写真左下: ホフマン輪窯6号窯(見学休止中)  
写真右下: ドイツ人煉瓦技師チーゼが設計し、娘と暮らした住居兼事務所。明治21(1888)年頃に建てられた。



写真提供: 深谷市

### ③ 鹿島神社

栄一は7歳の頃から従兄・尾高惇忠に学問を学びます。尾高邸のある下手計村の鎮守・鹿島神社の境内には、御神木の根元から湧いた水を引いた共同浴場がありました。栄一の母・えいは、この浴場で病気の人の背中を流しました。栄一が慈善事業に貢献したのも、この母の姿によるものです。境内には、尾高惇忠の業績を伝える巨大な藍香尾高翁頌徳碑があり、題字は徳川慶喜によるものです。

DATA  
【住所】深谷市下手計1145  
【アクセス】JR「深谷」駅からタクシーで約15分



写真提供: 渋沢栄一記念館

※新型コロナウイルス感染症対策のため、限定公開や事前予約が必要な施設があります。また今後の公開が中止となる可能性もございますので、見学時は事前に各施設のホームページ等でご確認ください。